

令和5年度 学校評価 自己評価書（1学期）

1 学校の重点目標

(1) 確かな学力の向上	授業のユニバーサルデザイン化を目指した「言語能力」の向上
(2) 豊かな心の醸成	自己肯定感を高め、自他の生命を尊重する「豊かな心」の醸成
(3) 頑張り抜くたくましさの育成	健康・体力の保持増進による「健やかな体」の育成
(4) 職員の資質の向上	全職員で取り組む、職員研修の充実による「職員の資質」の向上
(5) 開かれた学校の創造	地域に根ざした、特色ある「開かれた学校」の創造

2 課題と改善策

4 大変よい 3 よい 2 もう少し 1 努力を要する

	評価項目	職員	評価結果と改善方策
確かな学力の向上	1 学校・学級経営の充実	B	・全職員で最上位目標と課題を共有し、協力して取り組む。 ・業務改善の視点に立った効果的な仕事を遂行する。
	2 学力の向上	B	・各種調査の分析を生かして、課題点に取り組む。音読や読書を継続し、読解力の育成を図る。
	3 個に応じた指導の充実	B	・個々の子供の見取りと実態把握を行い、ICTを活用して、個々に応じた学びができるようにしていく。
	4 特別支援教育の充実	B	・特別支援教育コーディネーターを中心に連携を図り、支援員や職員、保護者、関係機関が協力し合って支援を充実させていく。
	5 読書指導の充実	A	・学校図書館を中心に各教科や行事等に運動させた活動ができていく。
豊かな心の醸成	1 道徳教育の充実	B	・子供自身が考え、子供同士で問いを深める授業づくりを目指す。
	2 生徒指導の充実	B	・ボランティア清掃や挨拶などがとてもよく、言われなくても取り組む姿が見られる。生徒指導提要についての研修を実施した。
	3 人権教育の充実	B	・子供たちへの刷り込みに気付き、多様性・包括性を尊重できるようにしていく。
	4 体験活動の充実	B	・地域の協力のおかげで、小山田ならではの学習ができていく。
	5 特別活動の充実	B	・委員会活動や児童会活動において、工夫した活動ができていく。児童の主体性を育てていく。少人数での体制を考えていく。
	6 国際理解教育・郷土教育 キャリア教育・主権者教育	B	・学年の発達段階に応じた取組ができるように、人材活用や機会の設定など工夫する必要がある。
頑張り抜くたくましさの育成	1 健康・安全教育の充実	A	・心と体の健康を図る取組を行う。・不審者侵入防止の学校体制と、侵入時のリスクマネジメントを全職員で行う。
	2 気力・体力の充実	A	・縄跳びやちょトレなど、年間を通した自主的な取組を行う。
	3 給食・食に関する指導の充実	A	・爪の長さや手洗いなど、なぜ必要かを理解させ、給食準備の際に守れていない部分を改善させる。
	4 環境教育の充実・環境整備	B	・緑化活動や美化活動など、学校用務嘱託員だけに任せるのではなく、朝の隙間時間に児童と全職員で草取りなどを行った。
職員の資質向上	1 職員研修の充実	B	・子供が考えなくなる授業、つなぎたくなる授業へと授業改善を行い、他の職員と学び合いながら個人の実践を充実させていく。
	2 人事評価制度を活用した資質向上	B	・確かな目標と具体策・数値目標の設定を行い、成果及び課題を明らかにして教師自身が主体的に資質の向上につなげていく。
開かれた学校の創造	1 子供のよさの発信	B	・週報・諸便り・HP等により、子供のよさを認めて伸ばし、自己効力感をアップさせていく。
	2 家庭との一層の連携	B	・教育相談やまなびポケットの活用、端末持ち帰りを随時に行い、保護者との連携を図る。
	3 家庭・地域との連携推進	A	・学校運営協議会を実効性のあるものにし、地域と共に学校の教育活動の充実を図っていく。
	4 幼・保・小・中・特別支援学校との連携	B	・思考力・判断力・表現力の育成を共通の視点として、中学校や近隣校との連携を図る。研修内容を一新して、授業改善に役立てていく。
	5 特色ある教育活動の展開 複式・少人数指導の充実	B	・小山田の特色を生かし、複式や少人数指導の充実に努める。
	6 チーム小山田の気概ある取組	B	・チームの一員としての自覚と支え合う職場づくりを行う。

3 次年度に向けての取組

○ 創立130周年事業を機に、学校・PTA・地域のつながりを大事にして、小山田っ子的によりよい学校をつくるように連携していく。負担感を増やすのではなく、カリキュラム・マネジメントでこれまでにやってきたことを生かしながら業務改善を行い、保護者や地域や外部の力も借りて、チームで取り組む体制を整えていく。

- 余裕をもった計画・運営をする。スケジュールが過密な部分を改善していく。時間外や休日の出会が多い。要検討。
- 共通の課題認識と当事者意識でビジョンを共有し、授業を通して語りと探究ができる組織にしていく。最上位目標を共有しながら、個々の課題意識に基づく実践を行う研修スタイルで、互いに学び合う体制をつくっていく。
- 個別の支援計画や教育支援計画をもとに、学期ごとの変容や課題について共通理解を図る。